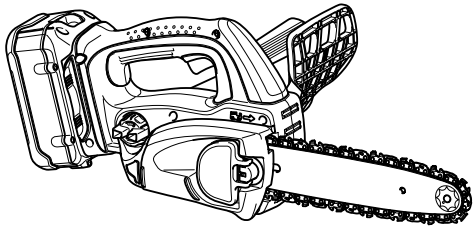
ヒューマンハードウェアのマキタ
人の暮らしとすまいのために……

取扱説明書

250mm 充電式チェンソー

モデル MUC250D



このたびは **250mm 充電式チェンソー**をお買い上げ賜わり厚くお礼申し上げます。ご使用に先立ち、この取扱説明書をよくお読みいただき本機の性能を十分ご理解の上で、適切な取り扱いと保守をしていただいて、いつまでも安全に能率よくお使いくださるようお願いいたします。
なお、この取扱説明書はお手元に大切に保管してください。

目次

・主要機能 ----------3
・充電工具共通の安全上のご注意 ----------6
・充電式チェンソー安全上のご注意 ----------11
・各部の名称および標準付属品----------13
・別販売品のご紹介 ----------14
・使い方 ----------15
・バッテリの取り付け・取りはずし方----------15
・バッテリ保護機能 ----------15
・バッテリについて ----------16
・バッテリの容量表示方法（バッテリ BL3622A のみ）----------16
充電器 DC36RA の場合
・バッテリの充電方法----------17
・充電表示ライトについて----------18
・冷却システムについて ----------19
充電器 DC36WA の場合
・バッテリの充電方法----------20
・充電表示ライトについて----------21
・オートメンテナンス機能について（充電器 DC36RA のみ）----------23
・バッテリを長持ちさせるには ----------23
・バッテリの回収について----------23
・充電器の点検・修理・保管について----------23
・チェーン刃の調整 ----------24
・チェーン刃の取り付け・取りはずし方 ----------26
・取りはずし方 ----------27
・取り付け方----------28
・スイッチの操作----------29
・チェーンブレーキ ----------30
・ブレーキの操作----------30
・ブレーキの解除----------30
・チェーンオイルについて----------31
・チェーンオイル給油量の調整 ----------31
・吊り下げ用リング ----------32
・チェンソーの持ち運び方----------32
・切断作業 ----------33
・樹木の剪定----------34
・チェンソーによる各種の作業方法 ----------35
・基本的な作業 ----------35
・各種の切断作業例 ----------36
・伐木作業（立ち木を倒す作業）----------36
・枝払い作業----------36
・造材作業（倒した木を切断する作業）----------37
・保守・点検について----------38
・上刃および横刃の目立て----------38
・デプスゲージの調整方法----------39
・ガイドバーの清掃 ----------39
・オイル吐出口の清掃----------40
・スプロケットの交換----------40
・本機の保管----------40
・カーボンブラシの点検および交換 ----------41
・カーボンブラシの点検 ----------41
・カーボンブラシの交換 ----------41
・本機のお手入れ----------41
・ご修理の際は ----------41

主要機能

主要機能＼モデル		MUC250D	
電動機		直流マグネットモータ	
バッテリ		リチウムイオンバッテリ	
		バッテリ BL3626 (容量 2.6 Ah)	バッテリ BL3622A (容量 2.2 Ah)
電圧		直流 36 V	
※ 1 充電あたりの作業量（本）		杉角材 50 × 50 mm 約 300 本 (バッテリ BL3626 の場合)	杉角材 50 × 50 mm 約 250 本 (バッテリ BL3622A の場合)
チェーンスピード		8.3 m/ 秒 (500 m/ 分)	
チェーンオイル	使用オイル	マキタチェーン専用オイルまたは市販のチェーンオイル	
	タンク容量	0.085 L	
	給油方式	自動	
切断部	チェーン刃タイプ	オレゴン 91VG/91PX	
	チェーン刃ピッチ（インチ）	3/8	
	チェーン刃ゲージ（インチ）	0.050	
	チェーン刃ドライブリンク数（枚）	40	
	ガイドバー長さ (mm)	250	
	ガイドバーゲージ（インチ）	0.050	
本機寸法		長さ 576 mm ×幅 200 mm ×高さ 239 mm	長さ 577 mm ×幅 200 mm ×高さ 239 mm
質量		4.4 kg（バッテリ 1.3 kg 含む）(チェーン刃、ガイドバー含む)	
振動 3 軸合成値		7.0 m/s^2	

・ 振動 3 軸合成値は、EN60745-2-13 規格に基づき測定。
・ 振動 3 軸合成値についての詳細は JEMA［(社) 日本電機工業会］ウェブサイト：(http://www.jema-net.or.jp/Japanese/pis/powertool.html) をご参照ください。

充電器	DC36RA	DC36WA
入力電圧	単相交流 100 V	
入力周波数	50-60 Hz	
入力容量	430 VA	230 VA
出力電圧	直流 36 V	
出力電流	直流 9 A	直流 2.3 A

・ 改良のため、主要機能および形状などは変更する場合がありますので、ご了承ください。

※ 数値は参考値です。材料の状態、チェーン刃の状態により異なります。

シンボルマークについて

・ 製品および取扱説明書にシンボルマークを記載しております。このシンボルマークの意味をご理解の上ご使用ください。

ご使用前に取扱説明書を必ずよくお読みください。

保護めがね、耳栓、保護帽などの保護具を着用してください。

防振性のよい手袋、安全靴などの保護具を着用してください。

本機を雨中や湿気の多いところで使用したり、放置しないでください。

両手で確実にハンドルを保持し、片手では作業しないでください。

本機はバッテリコンバータ BCV03 を取り付け使用できます。

注意文の ⚠警告 ・ ⚠注意 ・ 注 の意味について

ご使用上の注意事項は ⚠警告 と ⚠注意 ・ 注 に区分していますが、それぞれ次の意味を表します。

⚠警告 ： 誤った取り扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容のご注意。

⚠注意 ： 誤った取り扱いをしたときに、使用者が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容のご注意。
なお、⚠注意 に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

注 ： 製品および付属品の取り扱いなどに関する重要なご注意。

充電工具共通の安全上のご注意

JPA002-43

⚠ 警告

- ご使用前に、「取扱説明書」と「安全上のご注意」すべてをよくお読みの上、正しく使用してください。
- 感電、火災、重傷などの事故を未然に防ぐために、この「安全上のご注意」を必ず守ってください。
- 「充電工具」は、充電式（バッテリパック式）電動工具を示します。

a) 作業環境

1. 作業場は、整理整頓してください。また、十分に明るくし、いつもきれいに保ってください。
- ちらかった暗い場所や作業台は、事故の原因となります。

2. 可燃性の液体・ガス・粉じんのある所で使用しないでください。
- 充電工具から発生する火花が発火や爆発の原因になります。

3. 使用中は子供や第三者を作業場に近づけないでください。
- 注意が散漫になり、操作に集中できなくなる可能性があります。
- 作業者以外、充電工具や充電器のコードに触れさせないでください。

b) 電気に関する安全事項

1. 電源コンセントは充電器の電源プラグに合ったものを使用してください。また、電源プラグの改造をしないでください。接地付きプラグは確実にアースをしてください。
- 改造していない電源プラグおよびそれに対応するコンセントを使用すれば、感電のリスクが低減されます。

2. 金属製のパイプや暖房器具、電子レンジ、冷蔵庫の外枠などアースされているものに身体を接触させないようにしてください。
- 感電する恐れがあります。

3. 充電工具は、雨ざらしにしたり、湿った、またはぬれた場所で使用したりしないでください。
- 充電工具内部に水が入り、本機による感電やバッテリが短絡する恐れがあります。

4. 充電器の電源コードを乱暴に扱わないでください。
- 電源コードを持って充電器を運んだり、引っ張ったりしないでください。また、電源プラグを抜くために電源コードを利用しないでください。
- 電源コードを熱、油、角のある所、動くものに近づけないでください。電源コードが損傷したり、身体に絡まって感電する恐れがあります。

5. 屋外の使用に適した延長コードを使用してください。
- 屋外で使用する場合、キャブタイヤコード、またはキャブタイヤケーブルの延長コードを使用してください。

⚠ 警告

c) 作業者に関する安全事項

1. 「取扱説明書」と「安全上のご注意」をお読みになって、充電工具とその操作を理解した方以外は使用させないでください。

・ 理解せずに使用することは危険です。

2. 油断しないで十分注意して作業を行ってください。

・ 充電工具を使用する場合は、取扱方法、作業の仕方、周りの状況など十分注意して慎重に作業してください。
・ 疲れていたり、アルコールまたは医薬品を飲んでいる場合は、充電工具を使用しないでください。
・ 一瞬の不注意が深刻な傷害を招きます。

3. 安全保護具を使用してください。

・ 作業時は、常に保護メガネを使用してください。必要に応じて、防じんマスク、すべり防止安全靴・ヘルメット、耳栓（イヤマフ）などを着用してください。

4. 不意な始動は避けてください。

・ スイッチに指をかけて運ばないでください。

5. 充電工具の電源を入れる前に、調整キーやレンチなどは、必ず取りはずしてください。

・ 電源を入れたときに、取り付けたキーやレンチなどが回転して負傷する恐れがあります。

6. 無理な姿勢で作業をしないでください。

・ 常に足元をしっかりさせ、バランスを保つようにしてください。

7. きちんとした服装で作業してください。

・ だぶだぶの衣服やネックレスなどの装身具は、回転部に巻き込まれる恐れがあるので着用しないでください。
・ 髪、衣服、手袋は回転部分に近づけないでください。
・ 屋外での作業の場合には、すべり止めの付いた履物の使用をおすすめします。
・ 長い髪は、帽子やヘアカバーなどで覆ってください。

8. 集じん装置が接続できるものは接続して使用してください。

・ 充電工具に集じん機などが接続できる場合は、これらの装置を確実に接続することで粉じんの人体への影響を軽減できます。

d) 電動工具の使用と手入れ

1. 無理して使用せず作業に合った充電工具を使用してください。

・ 安全に能率よく作業するために、充電工具の能力に合った負荷で作業してください。
・ 小型の充電工具やアタッチメントは、大型の充電工具で行う作業には使用しないでください。

2. スイッチに異常がないか点検してください。

・ スイッチで始動および停止操作のできない充電工具は危険です。使用せず修理をお申し付けください。

3. 充電工具の誤始動を防ぐために、次の作業前はスイッチを切り、バッテリを本機から抜いてください。

・ 本機の調整
・ 刃物、砥石、ビットなどの付属品の交換
・ 保管、または修理
・ その他危険が予想される作業

⚠ 警告

4. **使用しない充電工具は、きちんと保管してください。**
・ 子供の手の届かない安全な所、乾燥した鍵のかかる所に保管してください。
5. **充電工具の保守点検をしてください。**
・ 可動部分の位置調整および締め付け状態、部品の破損、取り付け状態、その他運転に影響をおよぼすすべての箇所に異常がないか確認してください。
・ 保守点検が不十分であることが事故の原因になります。
・ 握り部は、常に乾かしてきれいな状態に保ち、油やグリスなどが付かないようにしてください。
・ 注油や付属品の交換は、取扱説明書に従ってください。
・ コードは定期的に点検し、損傷している場合は、お買い上げの販売店、または当社営業所に修理をお申し付けください。
・ 延長コードを使用する場合は、定期的に点検し、損傷している場合には交換してください。
・ 安全に能率よく作業していただくために、刃物類は常に手入れをし、よく切れる状態を保ってください。
6. **先端工具は、鋭利できれいな状態を保ってください。**
・ 先端工具を適切に手入れすることで、円滑な作業と容易な操作ができます。
7. **充電工具、付属品、アタッチメント、先端工具類は、作業条件や実施する作業に合わせてご使用ください。**
・ 指定された用途以外に使用すると、事故の原因になります。
8. **極端な高温や低温の環境下では十分な性能を得られません。**

e) 充電工具の使用と手入れ
1. **バッテリを差し込む前に、スイッチが切れていることを確認してください。**
・ スイッチがオンの位置にあるときにバッテリを差し込むと事故につながります。
2. **バッテリは専用充電器以外では充電しないでください。**
・ ほかのバッテリ用の充電器を流用すると、火災、発熱、破裂、液漏れの恐れがあります。
3. **マキタが指定した専用バッテリ以外使わないでください。また、改造したバッテリ（分解してセルなどの内蔵部品を交換したバッテリを含む）を使用しないでください。**
・ 工具本体の性能や安全性なども損なう恐れがあり、火災やけが、故障、破裂などの原因になります。
4. **バッテリの端子部を金属などで接触させないでください。**
・ バッテリを金属と一緒に工具箱や釘袋などに保管しないでください。短絡して発熱、発火、破裂の恐れがあります。
・ 本機または充電器からはずした後は、バッテリにバッテリカバーを必ず取り付けてください。
5. **高温などの過酷な条件下ではバッテリから液漏れすることがあります。漏れ出た液体に不用意に触れないでください。**
・ 万が一、バッテリの液が目に入ったら、直ちにきれいな水で十分洗い医師の治療を受けてください。
・ バッテリの液は炎症ややけどの原因になることがあります。

⚠警告

f) 整備

1. 充電工具は、専門家による純正部品だけを用いた修理により安全性を維持することができます。

・ 本機、充電器、バッテリを分解、修理、改造はしないでください。発火したり、異常動作して、けがをする恐れがあります。
・ 本機が熱くなったり、異常に気づいたときは点検・修理に出してください。
・ 本機は、該当する安全規格に適合しているので改造しないでください。
・ 修理は、必ずお買い上げの販売店、または当社営業所にお申し付けください。
・ 修理の知識や技術のない方が修理すると、十分な性能を発揮しないだけでなく、事故やけがの恐れがあります。

その他の安全事項

1. 損傷した部品がないか点検してください。

・ 使用前に、保護カバーやその他の部品に損傷がないか十分点検し、正常に作動するか、また所定機能を発揮するか確認してください。異常がある場合は、使用する前に修理を行ってください。
・ 破損した保護カバー、その他の部品交換や修理は、取扱説明書に従ってください。取扱説明書に記載されていない場合は、お買い上げの販売店、または当社営業所に修理をお申し付けください。スイッチが故障した場合は、お買い上げの販売店、または当社営業所に修理をお申し付けください。
・ 異常・故障時には、直ちに使用を中止してください。そのまま、使用すると発煙・発火、感電、けがに至る恐れがあります。
  ＜異常・故障例＞
  - 電源コードや電源プラグが異常に熱い。
  - 電源コードに深いキズや変形がある。
  - 電源コードを動かすと、通電したりしなかったりする。
  - 焦げくさい臭いがする。
  - ビリビリと電気を感じる。
・ スイッチを入れても動かないなど不具合を感じた場合は、すぐにバッテリを抜いてお買い上げの販売店、または当社営業所に点検、修理をお申し付けください。

2. 正しい付属品やアタッチメントを使用してください。

・ この取扱説明書および当社カタログに記載されている付属品やアタッチメント以外のものを使用すると、事故やけがの原因となる恐れがあるので使用しないでください。

3. 材料を加工する工具では、材料をしっかりと固定してください。

・ 材料を固定するために、クランプや万力などを利用してください。手で保持するより安全で、両手で充電工具を使用できます。(材料を動かして加工する製品を除く。)

4. 使用時間が極端に短くなったバッテリは使用しないでください。
5. 落としたり、何らかの損傷を受けたバッテリは使用しないでください。
6. ご使用済みのバッテリは一般家庭ゴミとして棄てないでください。

・ 棄てられたバッテリがゴミ収集車内などで破壊されて短絡し、発火・発煙の原因になる恐れがあります。

7. ラッカー、ペイント、ベンジン、シンナー、ガソリン、ガス、接着剤などのある場所では充電しないでください。

・ 爆発や火災の恐れがあります。

⚠警告

8. 火災の恐れがあります。次のようなことをしないでください。
- ダンボールなどの紙類、座布団などの布類、畳、カーペット、ビニールなどの上では充電しないでください。
- 風窓のある充電器は、充電中に風窓をふさがないでください。また風窓に金属類、燃えやすいものを差し込まないでください。
- 綿ぼこりなど、ほこりの多い場所で充電しないでください。

9. 充電器のバッテリ装着部には充電用端子があります。金属片・水などの異物を近づけないでください。
- そのまま充電を続けると発煙、発火、破裂の恐れがあります。

10. 充電器は充電以外の用途には使用しないでください。

11. 充電中、発熱などの異常に気が付いたときは、直ちに電源プラグを抜いて充電を中止してください。そのまま充電を続けると発煙、発火、破裂の恐れがあります。

12. バッテリは、火への投入、加熱をしないでください。
- 発火、破裂の恐れがあります。

13. バッテリに釘を刺したり、衝撃を与えたり、分解・改造をしないでください。
- 発熱、発火、破裂の恐れがあります。

14. バッテリを火のそばや炎天下など高温の場所で充電・使用・保管しないでください。
- バッテリを周囲温度が 50 ℃以上に上がる可能性のある場所（金属の箱や夏の車内など）に保管しないでください。バッテリ劣化の原因になり、発煙、発火の恐れがあります。

15. 正しく充電してください。
- 充電器は定格表示してある電源で使用してください。昇圧器などのトランス類を使用したり直流電源やエンジン発電機では使用しないでください。（当社インバータ制御付エンジン発電機は除く。）異常に発熱し、火災の恐れがあります。
- 周囲温度が 10 ℃未満、または周囲温度が 40 ℃以上ではバッテリを充電しないでください。破裂や火災の恐れがあります。
- バッテリは、換気のよい場所で充電してください。バッテリや充電器を充電中、布などで覆わないでください。破裂や火災の恐れがあります。
- 使用しない場合は、電源プラグを電源コンセントから抜いてください。破裂や火災の恐れがあります。
- 電源コードが踏まれたり、引っかけられたり、無理な力を受けて損傷することがないような場所で充電してください。発煙、発火、感電の恐れがあります。

16. ぬれた手で電源プラグに触れないでください。
- 感電の恐れがあります。

この取扱説明書は、大切に保管してください。
- お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見ることができる所に必ず保管してください。
- ほかの人に貸し出す場合は、一緒に取扱説明書もお渡しください。

●騒音防止規制について

騒音に関しては、法令や各都道府県などの条例で定める規制がありますので、ご近所などの周囲に迷惑をかけないようにご使用ください。

充電式チェンソー安全上のご注意

先に充電工具としての共通の注意事項を述べましたが、充電式チェンソーとして、さらに次の注意事項を守ってください。

JPB100-10

⚠警告

1. 本機を雨中や湿気の多い所で使用したり、放置しないでください。
・ 故障や感電、けがの原因になります。
2. 使用中は、両手で確実にハンドルを保持してください。
・ 本機がはね返り、けがの原因となります。
3. チェーン刃は取扱説明書に従って正しく取り付けてください。
・ 誤った取り付け方をしますと、ガイドバーからチェーン刃がはずれ、けがの原因になります。
4. はしごや木に登って作業するなど、不安定な姿勢で使用しないでください。
・ けがの原因になります。
5. 肩の高さより高い位置で使用しないでください。
・ けがの原因になります。
6. ガイドバーの先端部での切断はしないでください。また、ガイドバーの先端部を枝や地面などに触れさせないように作業してください。
・ 本機がはね返り（キックバック）けがの原因になります。
7. 使用中は、チェーン刃、ガイドバーや回転部に手や顔などを近づけないでください。
・ けがの原因になります。
8. 使用中、本機の調子が悪かったり、異常音がしたときは、直ちにスイッチを切って使用を中止し、お買い上げの販売店、または当社営業所に点検・修理をお申し付けください。
・ そのまま使用していると、けがの原因になります。
9. 誤って落としたり、ぶつけたときは、チェーン刃、ガイドバーや本機などに破損や亀裂、変形がないことをよく点検してください。
・ 破損や亀裂、変形があると、けがの原因になります。
10. 〔事業者の方へ〕本機を使用して伐採、造材などの作業を行う場合は、法・規則で定める特別教育を受けた人に行わせてください。

関連法令	労働安全衛生法	第５９条第３項
	安全衛生特別教育規程	第１０条の２
	労働安全衛生規則	第３６条第８号および第８号の２

⚠注意

1. 使用しないときは、ガイドバーにカバーをし、刃物がむき出しにならないようにして、お子様の手の届かない所に保管してください。
・ けがの原因になります。
2. スイッチを入れるとき、チェーン刃が材料やほかのものに当たっていないことを確認してください。
・ 本機が引っ張られたり戻されたりして、けがの原因になります。
3. 作業中は常に手袋、保護メガネ、耳栓を使用し、履物はすべりにくいものを着用してください。
・ けがの原因になります。
4. 材料に石、釘などの異物がないことを確かめてください。
・ 刃物が石などに当たると、けがの原因になります。
5. 切断材料は、しっかり固定してください。また切り落とし材に十分注意してください。
・ けがの原因になります。
6. 切り落とし寸前や切断中に材料の重みでガイドバーが材料に挟み込まれないように、切断する部分に近い位置を支える台を設けてください。
・ ガイドバーが挟みつけられると、けがの原因になります。
7. チェーンカバーが取り付いた状態で本機を起動しないでください。

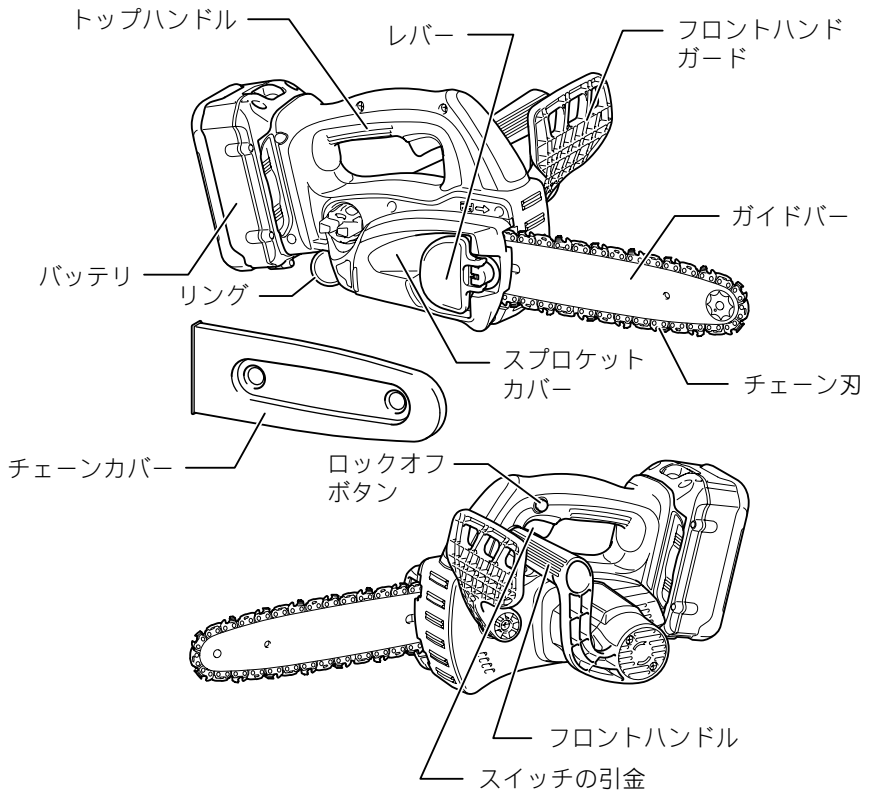
注

・ 電源が離れていて延長コードが必要なときは、充電器を最高の能率で支障なくご使用いただくために十分な太さのコードをできるだけ短くお使いください。

使用できる延長コードの太さ（導体公称断面積）と長さの目安

コードの太さ（導体公称断面積）	コードの長さの目安
2.0 mm^2	30 m

各部の名称および標準付属品



製品の組み合わせおよび標準付属品

モデル / 標準付属品	MUC250DZ	MUC250DRD	MUC250DWB	MUC250DWBX
バッテリ	×	○ バッテリ BL3626 (2.6 Ah)	○ バッテリ BL3622A (2.2 Ah)	○ (2 個) バッテリ BL3622A (2.2 Ah)
充電器 (充電時間)	×	○ DC36RA (約 22 分)	○ DC36WA (約 60 分)	○ DC36WA (約 60 分)
丸ヤスリ	○	○	○	○
チェーンカバー	○	○	○	○
チェーンオイル	○	○	○	○
バッテリカバー	×	○	○	○

別販売品のご紹介

・ 別販売品の詳細につきましてはカタログを参照していただくか、お買い上げ販売店もしくは、当社営業所へお問い合わせください。

・ チェーン刃 91VG-40E
部品番号：A-51708

・ チェーン刃 91PX-40E
部品番号：A-55631

・ バッテリ BL3626
部品番号：A-49965

・ 腕用コードフック
部品番号：A-42254

・ チェーンオイル（1L × 1 個入）
部品番号：A-34702

・ 充電器 DC36RA
バッテリ BL3626 専用充電器です。

・ バッテリアダプタ BAP36N
部品番号：A-51225

・ バッテリ BL3622A
部品番号：A-52261

・ 充電器 DC36WA
バッテリ BL3622A 専用充電器です。

充電器とバッテリの使用可能な組み合わせ

充電器＼バッテリ	BL3626	BL3622A
DC36RA	○	×
DC36WA	×	○

使い方

バッテリの取り付け・取りはずし方

⚠警告

バッテリは確実に本機に差し込んでください。ボタン上部の赤色部が見えている場合は完全にロックされていません。赤色部が完全に見えなくなるまでしっかり差し込んでください。

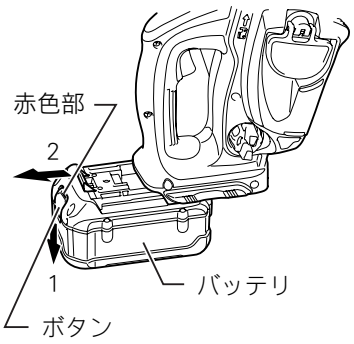
・ 差し込みが不十分の場合、はずれて事故の原因になります。

⚠注意

本機、バッテリを確実に保持して、バッテリ交換をしてください。

・ 確実に保持しないと落として本機およびバッテリが破損したり、けがをするおそれがあります。

・ バッテリを本機から取りはずすときは、1. バッテリ正面のボタンを引き下げながら 2. スライドさせると取りはずせます。
・ 取り付けるときは逆の要領で、本機の溝に合わせ、奥まで挿入してください。この際、ボタン上部の赤色部が見えている場合は完全にロックされていません。赤色部が見えなくなるまで、奥まで確実に挿入してください。



バッテリ保護機能

バッテリ寿命を長くする目的で出力を自動停止する保護機能が付いています。本機を使用中、下記状態になりますとモータが自動停止しますが、これはバッテリの保護機能によるものであり故障ではありません。

・ 本機が過負荷状態になるとモータが自動停止します。
このときはいったんスイッチをはなし、本機よりバッテリを取りはずした後、過負荷の原因を取り除いてください。原因を取り除けば再びご使用になれます。
・ バッテリの温度が高温になるとモータが自動停止します。スイッチを操作してもモータは停止したままです。
このときはバッテリの使用を中断し、本機よりバッテリを取りはずし、バッテリを冷ますかまたは、充電してください。
・ バッテリの容量が少なくなるとモータが自動停止します。スイッチを操作してもモータは停止したままです。
このときは本機よりバッテリを取りはずし、バッテリを充電してください。

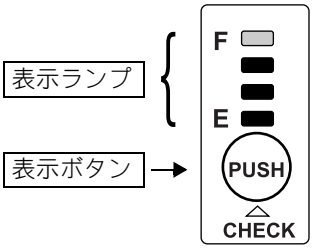
使い方

バッテリについて

- お買い上げ時は、バッテリは十分に充電されていないため、バッテリ保護機能が働いている場合があります。(スイッチを操作すると本機は動くことがありますので注意してください。) ご使用前に充電器で正しく充電してからご使用ください。
- 使用しないときはバッテリカバーをかぶせてください。バッテリを水やほこりから保護するのに役立ちます。

バッテリの容量表示方法（バッテリ BL3622A のみ）

- バッテリの表示ボタンを押すと、表示ランプが約３秒間点灯してバッテリの残容量を表示します。



例）45%～ 70%表示時

注

- 最下位の表示ランプ（E 表示の横）のみ点滅する場合、もしくは全ての表示ランプが点灯しない場合はバッテリの残容量が少なくなっているため、工具が作動しません。
  この場合はバッテリを充電するか、充電済のバッテリに交換してください。
- 充電完了しても表示ランプが 2 個以上点灯しない場合、バッテリの寿命です。
- 表示ランプの上位 2 つと下位 2 つが交互点灯する場合はバッテリが故障している恐れがあります。お買い上げの販売店、または当社営業所にお申し付けください。
- 工具使用中、使用直後はやや少なめに表示されます。

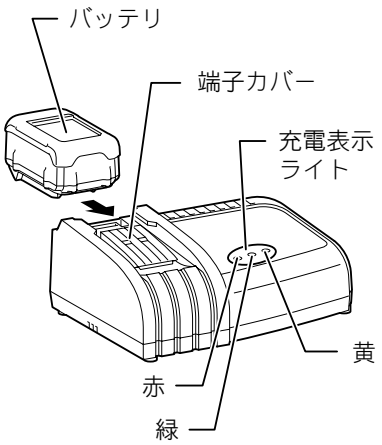
表示の見かた

表示ランプ ■：点灯　□：消灯　◧：点滅	容量
E ■■■■ F	70%～100%
■■■□	45%～70%
■■□□	20%～45%
■□□□	0%～20%
◧□□□	充電してください。
■■□□ ↑ ↓ □□■■	故障の可能性があります。

※ 容量表示はバッテリの使用条件、温度環境により正確に表示されない場合があります。

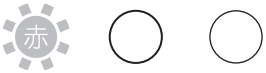
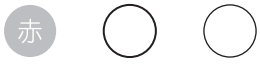
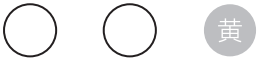
充電器 DC36RA の場合
バッテリの充電方法

1. 充電器の電源プラグを 100 V の電源コンセントに差し込んでください。充電表示ライトは「緑」の点滅を繰り返します。
2. バッテリを充電器の挿入ガイドにそって、一番奥まで入れてください。充電器の端子カバーはバッテリ挿入に伴い開閉します。
3. バッテリを挿入しますと充電表示ライトが「赤」に点灯し、充電を開始します。
   充電が完了すると「緑」の点灯に変わり、電子ブザーが鳴ります。
   充電時間は周囲温度（10 ℃～ 40 ℃）やバッテリの状態（新品・長期保存バッテリや寿命に近いバッテリなど）により変動します。
4. バッテリを抜き取り、電源コンセントから充電器の電源プラグを抜いてください。



使い方

充電表示ライトについて

ライト表示	表示内容
	充電前「緑１個」点滅 電源に差し込んだ状態です。 充電できないバッテリを差し込んだ場合 「緑１個」点滅となります。
	冷却中「赤１個」点滅 バッテリが高温です。適度な温度になると 自動的に充電開始します。
 	充電中「赤１個」点灯 バッテリ容量約0～80%を示します。 充電中「赤１個・緑１個」点灯 バッテリ容量約80～100%を示します。
	充電完了「緑１個」点灯　電子ブザー
	充電不可「赤・緑１個」交互点滅 電子ブザー バッテリ寿命またはゴミづまりで充電できません。 互換アダプタ、リフレッシュアダプタ、 オートリフレッシュアダプタは使用できません。
	オートメンテナンス「黄」点灯 バッテリ寿命低下防止のため充電時間が長く なります。
	冷却システム異常「黄」点滅 冷却ファン故障または冷却不足です。

注

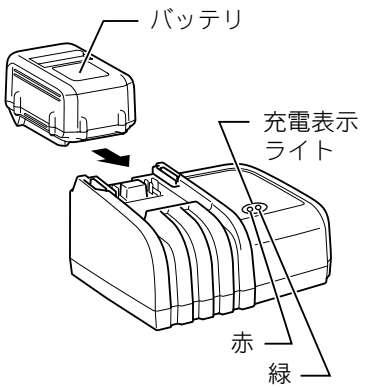
- DC36RA はマキタバッテリ専用の急速充電器です。他の目的に使用しないでください。
- 使用直後のバッテリや直射日光の当たる所に長時間放置したバッテリを充電されますと充電表示ライトが「赤」の点滅を繰り返す場合があります。このようなときは、充電器内蔵の冷却ファンによりバッテリを冷却してから充電を開始します。
- 充電開始後、充電表示ライトが「赤・緑」の交互点滅を繰り返し、電子ブザーが「ピッピッピッ」と約 20 秒間鳴った場合は、バッテリの寿命またはゴミ詰まりで充電できません。
- バッテリを連続で充電される場合は、充電時間が長くなることがあります。
- オートメンテナンス機能により、充電時間が周囲温度（10 ℃～ 40 ℃）やバッテリの状態に応じて変動します。
- 次のような状態のときは、充電器またはバッテリに故障があると考えられますので、充電器とバッテリの両方を、お買い上げの販売店または当社営業所へお持ちください。
  - ×充電器の電源プラグを 100 V の電源コンセントに差し込んでも、表示ライトが「緑」に点滅しない。
  - ×バッテリを挿入しても、表示ライトが「赤」に点灯または点滅しない。
  - ×充電開始後、表示ライトが「赤」に点灯した後、１時間以上たっても充電が完了しない。(表示ライトが「緑」に変わらない)。

冷却システムについて

- バッテリの性能を十分に発揮させるため、充電器内蔵の冷却ファンによりバッテリを効率良く冷却するシステムです。送風の音がしますが故障ではありません。
- 冷却ファンが故障したり、ゴミづまりによってファンが停止した場合、「黄」のライトが点滅し冷却システム異常をお知らせします。冷却システム異常の場合も充電を行いますが、充電時間が長くなることがあります。
- 充電中、送風の音がしない場合がありますが、「黄」のライトが点滅していなければ故障ではありません。冷却ファンを停止して充電することがあります。
- 充電器、バッテリの風穴をふさがないでください。
- 頻繁に「黄」のライトが点滅するようなときは、点検・修理をお申し付けください。

充電器 DC36WA の場合
バッテリの充電方法

1. 充電器の電源プラグを 100 V の電源コンセントに差し込んでください。充電表示ライトは「緑」の点滅を繰り返します。
2. バッテリを充電器の挿入ガイドにそって、一番奥まで入れてください。
3. バッテリを挿入しますと、充電表示ライトが「赤」に点灯し、充電を開始します。充電が完了すると「緑」の点灯に変わります。
4. バッテリを抜き取り、電源コンセントから充電器の電源プラグを抜いてください。



使い方

充電表示ライトについて

ライト表示	表示内容
	充電前「緑 1 個」点滅 電源に差し込んだ状態です。
	待機中「赤 1 個」点滅 バッテリが高温です。適度な温度になると 自動的に充電開始します。
 	充電中「赤 1 個」点灯 バッテリ容量約0～80%を示します。 充電中「赤 1 個・緑 1 個」点灯 バッテリ容量約80～100%を示します。
	充電完了「緑 1 個」点灯
	充電不可「赤・緑 1 個」交互点滅 バッテリ寿命またはゴミづまりで充電できません。

注

- DC36WA はマキタバッテリ専用の充電器です。他の目的に使用しないでください。
- 使用直後のバッテリや直射日光の当たる所に長時間放置したバッテリを充電されますと充電表示ライトが「赤」の点滅を繰り返す場合があります。このようなときは、バッテリの温度が下がると充電を開始します。
- 充電開始後、充電表示ライトが「赤・緑」の交互点滅を繰り返した場合は、バッテリの寿命またはゴミづまりで充電できません。
- 購入後、初めて充電する場合や、1 年以上放置されたバッテリを充電する場合は、充電時間が 2 時間以上かかることがあります。
- 次のような状態のときは、充電器またはバッテリに故障があると考えられますので、充電器とバッテリの両方を、お買い上げの販売店または当社営業所へお持ちください。
  ×充電器のプラグを 100 V の電源に差し込んでも、表示ライトが「緑」に点滅しない。
  ×バッテリを挿入しても表示ライトが「赤」に点灯または点滅しない。
  ×充電開始後、表示ライトが「赤」に点灯した後、3 時間以上たっても充電が完了しない。
  （表示ライトが「緑」に変わらない。）
- バッテリを使用しないときは、バッテリカバーをかぶせてください。
  バッテリを水やほこりから保護するのに役立ちます。

使い方

オートメンテナンス機能について（充電器 DC36RA のみ）

・ オートメンテナンス機能は、バッテリの使用状態に応じて自動的にバッテリを長持ちさせるように最適な充電を行うことを特徴としています。
・ 下記 1 ～ 4 の状態となった場合、特にバッテリ寿命が低下しやすい状況にあるため、充電中に「黄」のライトが点灯して充電時間が長くなることがあります。
  1 高温充電の繰り返し
  2 低温充電の繰り返し
  3 満充電バッテリの再充電の繰り返し
  4 過放電の繰り返し
  （過放電とは工具の力が弱くなってもさらに使用する状態です）

バッテリを長持ちさせるには

・ 工具の力が弱くなってきたと感じたら使うのをやめ、充電してください。
・ 満充電したバッテリを再度充電しないでください。
・ 充電は周囲温度 10 ℃～ 40 ℃の範囲で行ってください。
・ 使用直後などの熱くなったバッテリは、充電器に差し込んで冷却し充電することをおすすめします。
・ 長期間（6ヶ月以上）ご使用にならない場合、リチウムイオンバッテリは充電して保管することをおすすめします。

バッテリの回収について

・ 使用済みバッテリはリサイクルのため回収しております。お買い上げの販売店または当社営業所へご持参ください。

リチウムイオンバッテリは
リサイクルへ

充電器の点検・修理・保管について

・ いつも安全に能率よくお使いいただくために定期点検をおすすめします。
・ 修理・点検はお買い上げの販売店または当社営業所にお申し付けください。
・ 充電器の保管場所として次のような場所は避けてください。
  ×お子様の手が届いたり、簡単に持ち出せる所
  ×温度や湿度の急変する所
  ×湿気の多い所
  ×直射日光の当たる所
  ×揮発性物質の置いてある所

チェーン刃の調整

⚠警告

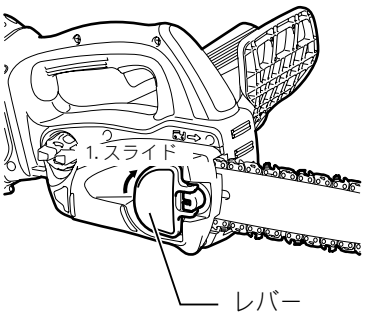
チェーン刃の調整の際は必ずスイッチを切り、本機よりバッテリを抜いてください。
- バッテリを本機に差し込んだまま行うと、事故の原因になります。

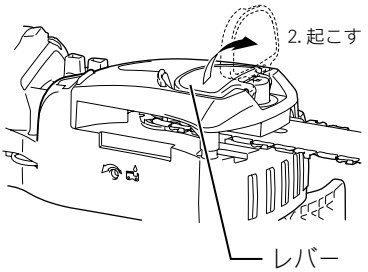
チェーン刃は、必ず適正な張りに調整してください。
- 張り方がゆるいと、ガイドバーからチェーン刃がはずれ、けがの原因になります。

⚠注意

チェーン刃の調整の際は必ず手袋をはめて行ってください。
- けがの原因になります。

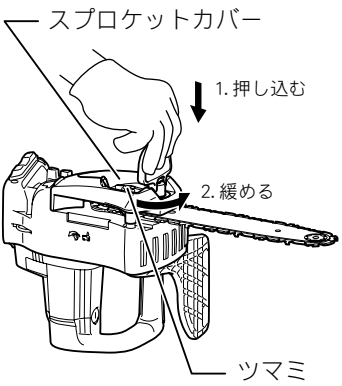
- レバーを図のように矢印の方向に1.少しずらしてから 2.起こします。



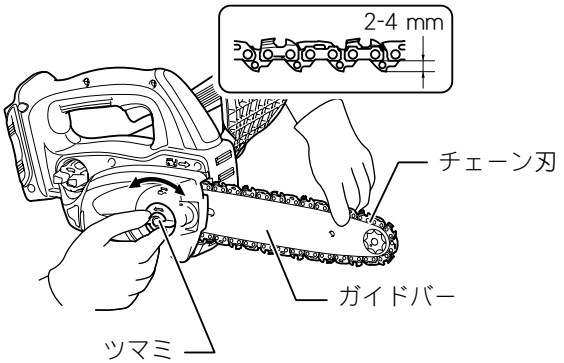


使い方

・ レバーを押し込みながら左（反時計回り）へ約 1/4 回転回してナットを軽く緩めます。（レバーを押し込むとガイドバーを固定しているナットとレバーがかみ合います。）

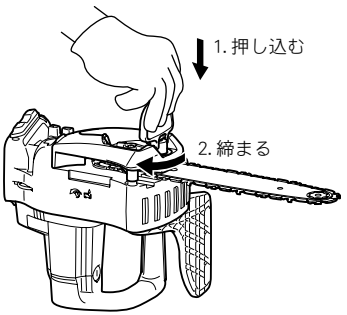


・ ガイドバーの中央部でチェーン刃を持ち上げて本機が浮きあがったとき、ガイドバーとチェーン刃との間が、2 ～ 4 mm 程度になるようにツマミを回してチェーン刃の張りを調整します。
・ このとき、ガイドバーの先端を軽く持ち上げた状態で調整します。

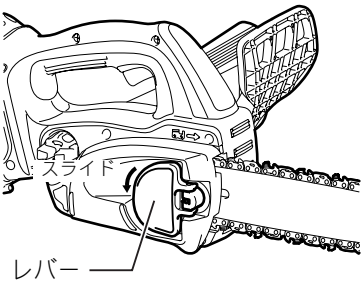


使い方

・ レバーを押し込みながら右 (時計回り) へ回してナットをしっかり締めます。
・ レバーを元の位置へ倒します。



・ レバーを矢印の方向にずらして、固定します。



注

・ チェーン刃が新しい間は伸びがちですので、時々調整してください。
・ チェーン刃の張りすぎは、チェーン刃の断線、ガイドバーの摩耗、ツマミの破損などの原因になります。
・ 張り方がゆるいときは、チェーン刃がガイドバーからはずれる原因となります。
・ チェーン刃の取り付け、取りはずしの際は、切り屑などのないきれいな場所で行ってください。

チェーン刃の取り付け・取りはずし方

⚠ 警告

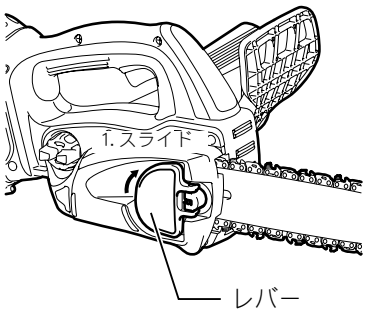
チェーン刃の取り付け・取りはずしの際は必ずスイッチを切り、本機よりバッテリを抜いてください。
・ バッテリを本機に差し込んだまま行うと、事故の原因になります。

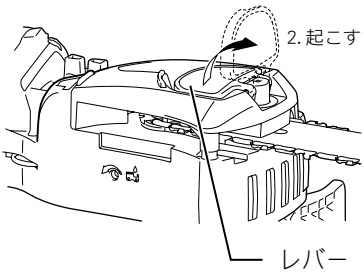
⚠ 注意

チェーン刃の取り付け・取りはずしの際は必ず手袋をはめて行ってください。
・ けがの原因になります。

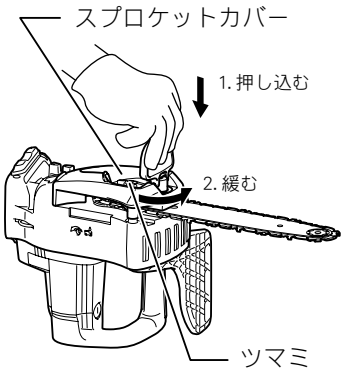
取りはずし方

・ レバーを図のように矢印の方向に1.少しずらしてから 2.起こします。





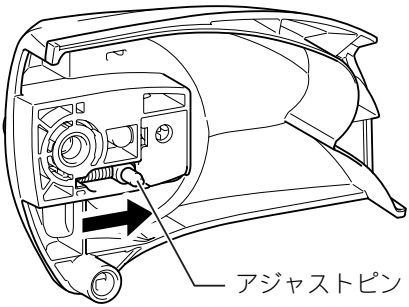
・ レバーを押し込みながら左（反時計回り）へ回してスプロケットカバーがはずれるまでナットを緩めます。（レバーを押し込むとガイドバーを固定しているナットとレバーがかみ合います。）
・ ツマミを左へ回してチェーン刃の張りを緩めます。
・ スプロケットカバーを取りはずします。
・ チェーン刃、ガイドバーを本機より取りはずします。



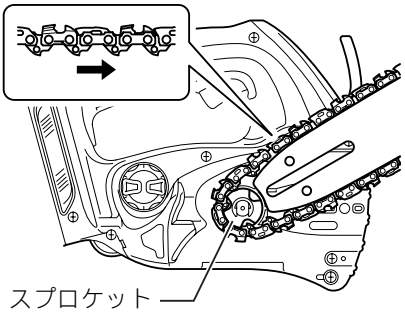
取り付け方

・ 事前にスプロケットカバーのツマミを左へ回してアジャストピンを後へずらしておきます。

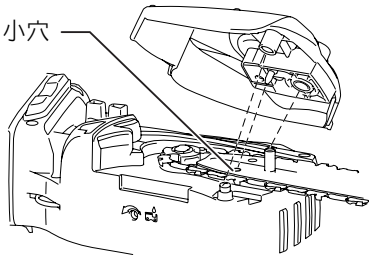
「スプロケットカバー裏側」



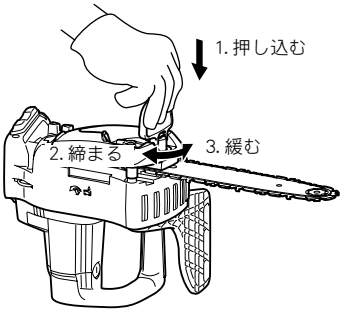
・ ガイドバーの先端にチェーン刃を入れ、他端を本機のスプロケット部に入れます。
・ この際、チェーン刃は矢印方向に回転しますのでチェーン刃の方向を図のようにセットします。
・ ガイドバーを本機の取り付け面にのせます。



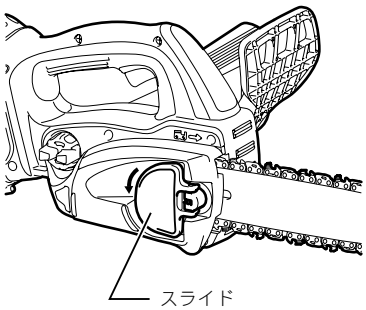
・ アジャストピンをガイドバーの小穴に入れてスプロケットカバーをかぶせます。この際、アジャストピンの位置がずれてガイドバーの小穴にはまらない場合は再度ツマミを回してアジャストピンの位置を調整します。



・ レバーを押し込みながら右へ回してナットを一旦締めてから、左へ約 1/4 回転回して軽く緩めます。
・ チェーン刃の調整（P24 参照）に従って、チェーン刃の張りを調整し、レバーを押し込みながら右へ回してナットをしっかり締めます。



・ レバーを元の位置へ倒します。
・ レバーを矢印の方向にずらして固定します。

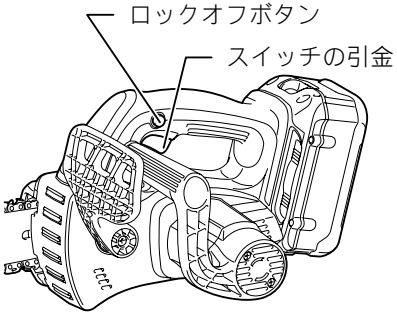


スイッチの操作

⚠ 警告

本機にバッテリを差し込む前に、スイッチが切れていることを必ず確認してください。
・ スイッチを入れたままバッテリを差し込むと急に回りだし、事故の原因になります。

・ スイッチはロックオフボタンを押し込んだ状態で引金を引くと入り、離すと切れます。スイッチの引金を離すと自動的にロックオフ機構が働き、スイッチが入らない状態になります。



チェーンブレーキ

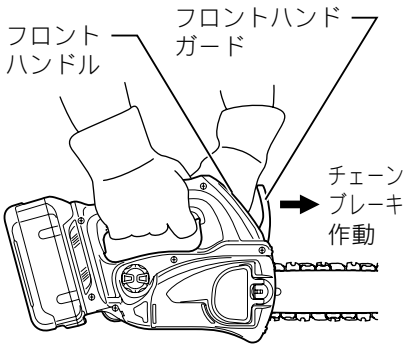
⚠警告

ブレーキを解除する前に、スイッチが切れていることを必ず確認してください。
- スイッチを入れたままブレーキを解除すると急にチェーン刃が回り、事故の原因になります。

- 本機は万一、キックバック（はね返り）が生じた場合、危険を少なくするために急ブレーキ装置を備えています。

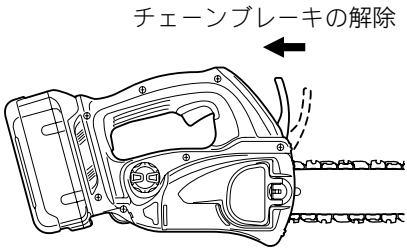
ブレーキの操作

- 本機のフロントハンドガードにフロントハンドルを持っている手の甲がキックバックによりあたって倒れるか、または手の甲でフロントハンドガードを前方に倒しますとブレーキが作動し、瞬時にチェーン刃は停止します。



ブレーキの解除

- ブレーキを解除するにはフロントハンドガードを手前に「カチッ」と音がするまで引き戻します。
- 引き戻す際、フロントハンドガードの本機との接続部付近を強く引き寄せます。

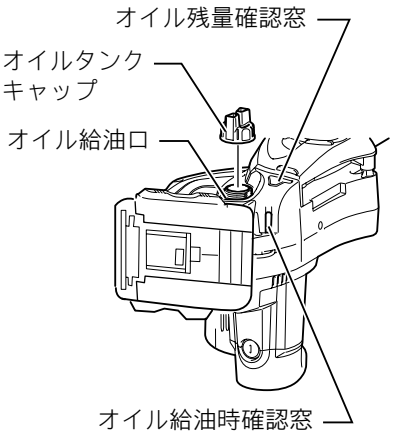


注

- **ブレーキの作動を作業前に確認してください。**
- **使用前にチェーンブレーキが作動していないか確認してください。**

チェーンオイルについて

- チェーンオイルはチェンソーを運転すると自動的に給油されます。
- オイル残量確認窓にてオイルタンク内のチェーンオイル量を確認します。
- チェーンオイルの補充はオイル給油口のキャップを取りはずして入れます。容量は約 85 mL です。
- オイル給油後は、必ず付属のオイルタンクキャップを取り付けてください。

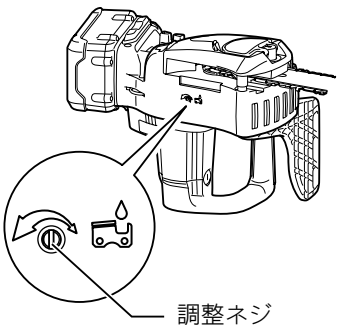


注

- **はじめてお使いになるときは、チェーンオイルをオイルタンク一杯に入れてください。**
- **チェーンオイルは、マキタチェンソー専用オイルまたは市販のチェンソーオイルをご使用ください。**
- **ゴミなどの混入したオイルおよび揮発性のオイルは絶対使用しないでください。**
- **切断作業をする前に付属のオイルタンクキャップが取り付けられていることを確認してください。**

チェーンオイル給油量の調整

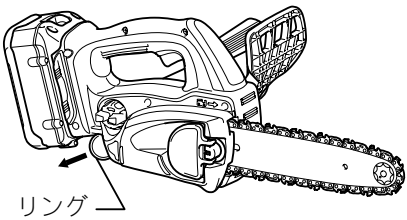
- 本機下面の調整ネジでチェーン刃への給油量を調整できます。左に回すと給油量が多くなり、右に回すと少なくなります。



使い方

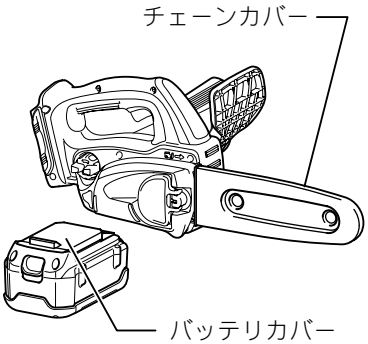
吊り下げ用リング

・ リングを本機から引き出して、ロープ等を結べば、本機を吊り下げることができます。



チェンソーの持ち運び方

・ チェンソーを持ち運ぶときは、必ずバッテリをはずし、チェーンカバーをガイドバーにかぶせてください。バッテリにはバッテリカバーをはめてください。



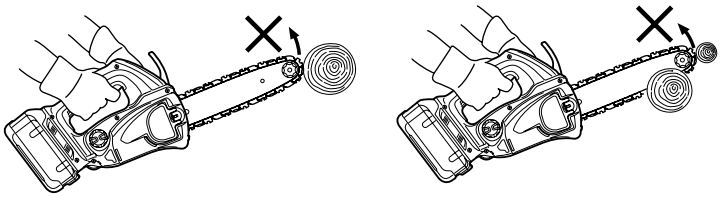
切断作業

⚠警告

使用中は、チェーン刃、ガイドバーや回転部に手や顔などを近付けないでください。
・ けがの原因になります。
使用中は、両手で確実にハンドルを保持してください。
・ けがの原因になります。
はしごや木に登って作業するなど、不安定な姿勢で使用しないでください。
・ けがの原因になります。
(事業者の方へ)
本機を使用して伐採、造材などの作業を行う場合は、法、規則で定める特別教育を受けた人に行わせてください。
(関連法令)

労働安全衛生法	第 59 条第 3 項
安全衛生特別教育規程	第 10 条の 2
労働安全衛生規則	第 36 条第 8 号の 2

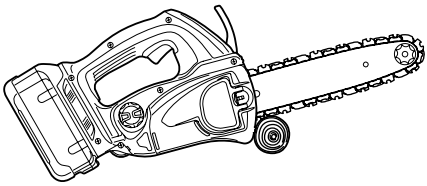
ガイドバーの先端部での、切断はしないでください。また、ガイドバーの先端部を枝や地面などに触れさせないよう作業してください。
・ 本機が跳ね返り（キックバック)、けがの原因になります。



⚠注意

切断材料は、しっかり固定してください。また切り落とし材に十分注意してください。
・ けがの原因になります。
2 台以上で作業するときは、安全な距離をおいてください。
・ 事故の原因になります。

・ チェーン刃を木材より離してスイッチを入れ、チェーンオイルが十分にチェーン刃に付着してから切断作業に入ります。
・ 本機を木材に当てて、そのまま真下へ押して切断します。
・ 本機前部を木材に当てて切断すると、本機が安定します。

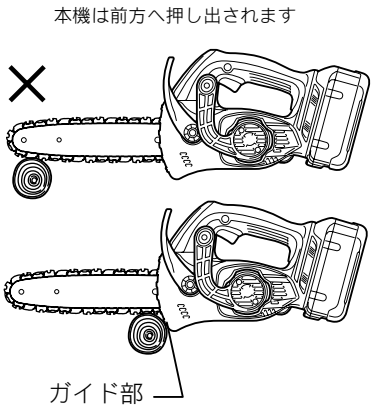


注

・ 本機に無理な力を加えないでください。

樹木の剪定

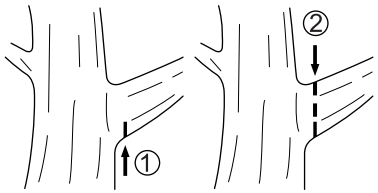
・ ガイド部に枝を軽く押し付け、チェーン刃を枝より離してスイッチを入れ枝を切断します。

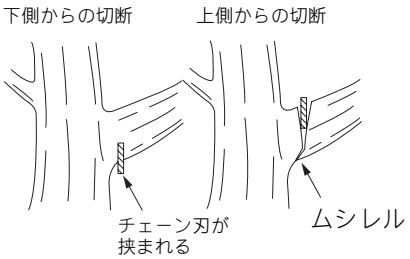


注

・ ガイド部に枝が接していないと本機がガイド側に引っ張られ、刃先がブレますので注意してください。

・ 太い枝を剪定するときは、枝の下側に切り込みを入れてから上から枝を切断します。





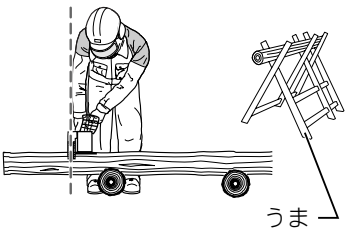
注

・ 枝を下側から切り上げていきますと、枝の重みで切り口が狭まり、チェーン刃が枝に挟まれて取れなくなります。また、下側に切り込みを入れずに上側から枝を切断すると、ムシレて仕上がり面が悪くなります。

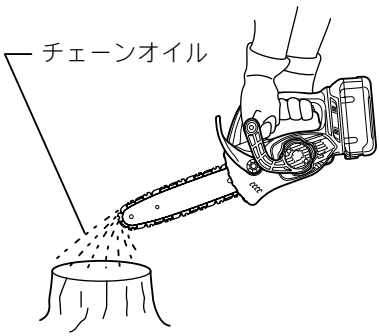
チェンソーによる各種の作業方法

基本的な作業

・ 回り止めやうまなどを用いて、木材が動かないように固定します。
・ ハンドルを両手でしっかり握り、チェーン刃を木材より離してスイッチを入れます。



・ ガイドバーの先端からチェーンオイルが吐出しているか確認します。
・ ガイバーの中央部付近を木材に当てて、そのまま真下へ本機を押して切断します。この際、無理に本機に力を入れないでください。

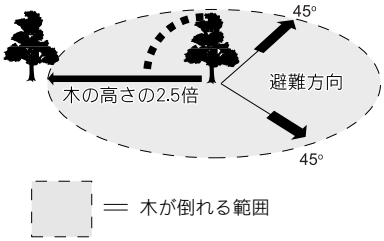


各種の切断作業例

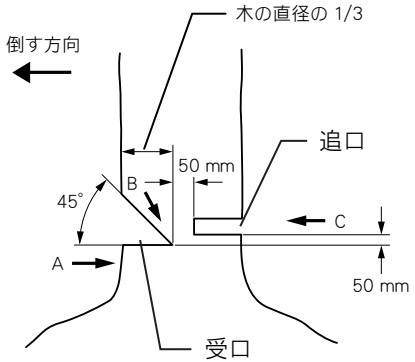
・ 伐木作業（立ち木を倒す作業）や造材作業（倒した木を切断する作業）をするときは、伐木などについての講習を受けたり、お買い求め先に相談して適切な指導を受けてください。

伐木作業（立ち木を倒す作業）

・ 倒す木の傾き、大きな枝の位置、風向きなどを考えて倒す方向、避難する方向を決めます。
・ 周囲の障害物を取り除き、足場の安全を確認します。倒す木が斜面にある場合は、必ず山側に安全な足場を確保してください。

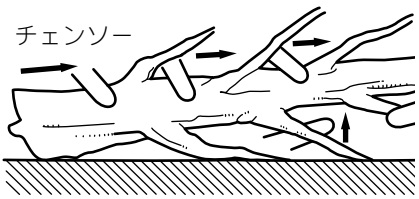


・ 図のように木を倒す方向に、直径の 1/3 程度の切り込みを A、B の順に入れて受口を作ってください。
・ 受口の水平部より約 50 mm 上部に、受口の水平部と平行に追口 C を切り込んでください。
・ 追口の切り込みが樹心を越えますと木が倒れ始めます。木が倒れ始めましたら、切り口よりチェンソーを離し、その場にチェンソーを置いて避難してください。
・ 木が所定の方向に倒れそうもない場合やチェーン刃、ガイドバーが挟まれたときは作業を中止し、追口にクサビを入れて倒れる方向を矯正したりチェーン刃、ガイドバーが挟まれないようにしてください。



枝払い作業

・ 倒した木の枝払いは、まず上部、側面の枝を一方向より切り落としてください。
・ 幹を支えている大きな枝を残し、地面側の枝を下側より切り落としてください。

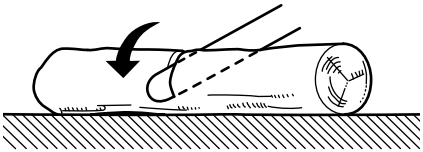


造材作業（倒した木を切断する作業）

・ 丸太の置かれている状態により切断方法が異なります。次のように切断してください。

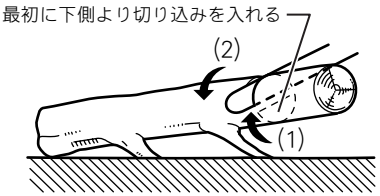
1. 丸太全体が地面に接している場合

(1) 丸太の上部から切り始め、そのまま真っすぐ切り下げてください。切り終わりにチェーン刃が地面に触れないように注意してください。



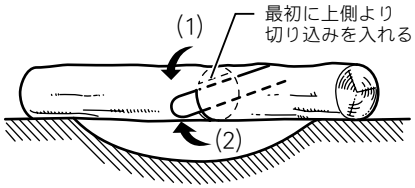
2. 丸太の一端が支持されている場合

(1) 最初に丸太の下側より直径の 1/3 まで切り込んでください。
(2) 下側から入れた切り込みと一致するように位置を合わせて上部から切断してください。



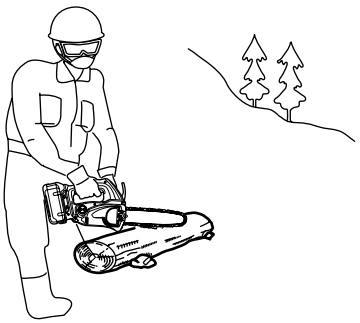
3. 丸太の両端が支持されている場合

(1) 最初に丸太の上部より直径の 1/3 まで切り込んでください。
(2) 上部から入れた切り込みと一致するように位置を合わせて下側から切断してください。



4. 斜面で丸太を切断する場合

(1) 最初に丸太がころがって落ちないようにクサビや杭などを用いて丸太を支えてください。
(2) 山側に立って、1. ～ 3. の内の適した方法で作業してください。



保守・点検について

⚠警告

点検・整備の際には必ずスイッチを切り、バッテリを本機から抜いてください。

・ バッテリを本機につないだまま行うと、感電や事故の原因になります。

⚠注意

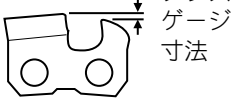
点検・整備の際には必ず手袋をはめて行ってください。

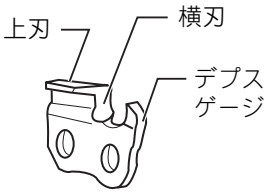
・ チェーン刃に手が触れ、けがの原因になります。

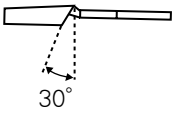
⚠警告

チェーン刃は正しく目立てしてください。

・ 特にデプスゲージ寸法が大きくなり過ぎますと、チェーン刃が切れやすくなり、けがの原因になります。



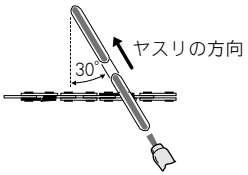


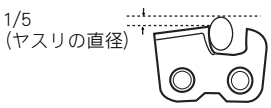


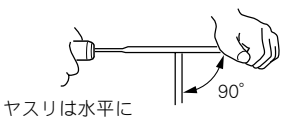
上刃および横刃の目立て

・ ガイドバーに対して丸ヤスリを 30° 傾け、丸ヤスリの直径の 1/5 が上刃より出るようにチェーン刃に当ててください。

・ 丸ヤスリの水平を保って、押すときだけヤスリをかけ、手前に引くときは刃部にヤスリを当てないようにして、上刃および横刃の目立てをしてください。

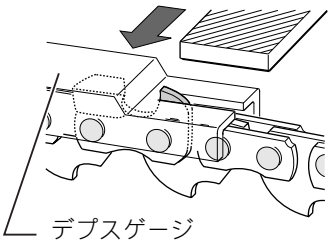


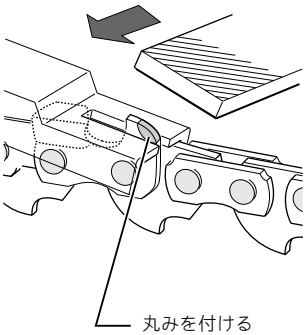




デプスゲージの調整方法

- デプスゲージはチェーン刃の切り込みしろを適正（0.64 mm）に保つためのものです。
- デプスゲージジョインタ（別販売品）を図のようにセットし、溝から出た部分を平ヤスリで削り落とします。
- デプスゲージの角に丸味を付けてください。
- デプスゲージの調整が終りましたら、オイルに浸して切り粉を洗い落としてください。



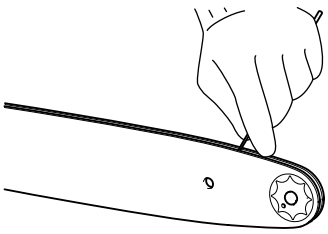


注

- **刃部の目立てには、外径が 4 mm（呼び 5/32″）の目立て専用丸ヤスリを使用してください。**

ガイドバーの清掃

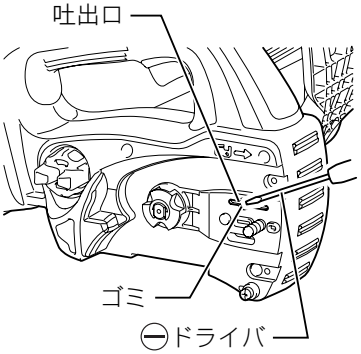
- ご使用中に、切り屑がガイドバーにつまることがあります。切り屑がガイドバーの溝につまりますと、チェーンオイルがチェーン刃全体に行き渡らなくなります。チェーン刃を目立てや交換するときに、ガイドバーの溝に入った切り屑を除去してください。



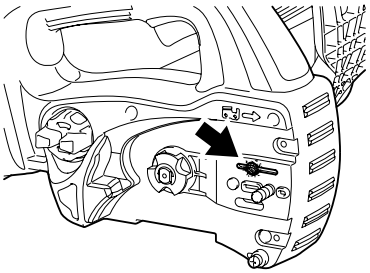
保守・点検について

オイル吐出口の清掃

- ご使用中に細かなゴミが吐出口につまることがあります。
- ゴミが吐出口につまるとチェーンオイルの吐出量が少なくなりチェーンオイルがチェーン刃全体に行き渡らなくなるおそれがあります。
- ㊀ドライバの先端などで吐出口のゴミを取り除いてください。
- ガイドバー先端からのチェーンオイルの吐出が少なくなった場合は下記手順で吐出口の清掃をしてください。



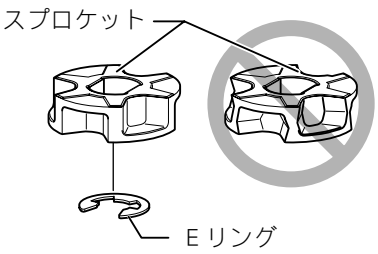
- バッテリを本機から抜いてください。
- スプロケットカバー、チェーン刃を取りはずしてください。(P26 チェーン刃の取り付け･取りはずし方の項目参照)
- バッテリを本機に差し込んでください。
- 本機のスイッチの引金を引いて本機のオイル吐出口に溜まっている細かなゴミをチェーンオイルで洗い流してください。



- バッテリを本機から抜いてください。
- スプロケットカバーとチェーン刃を本機に取り付けてください。

スプロケットの交換

- チェーン刃を交換するときにはスプロケットの状態を確認してください。
- スプロケットの状態がイラストのように磨耗している場合、スプロケットを新品と交換してください。
- スプロケットを交換するときには必ず新品のＥリングを使用してください。



本機の保管

- スプロケットカバーを取りはずし、本機に付着した切り屑を除去してください。
- チェーン刃、ガイドバーを取り付け、しばらく空転させ、チェーン刃、ガイドバーにオイルを付着させてください。
- チェーンカバーをガイドバーにかぶせてください。
- オイルタンク内のオイルを抜いてタンク内を空にして、タンクキャップが側面になるように本機を置いて保管してください。
- 保管の際は本機からバッテリを抜いてください。

保守・点検について

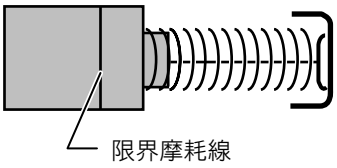
カーボンブラシの点検および交換

⚠警告

点検・整備の際には必ずスイッチを切り、本機よりバッテリを抜いてください。
- バッテリを本機に差し込んだまま行うと、事故の原因になります。

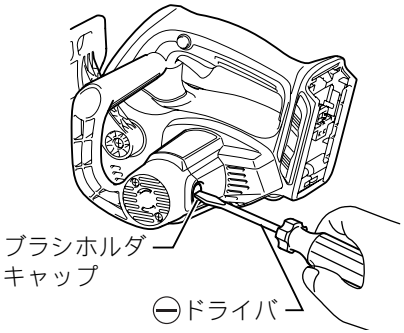
カーボンブラシの点検

- カーボンブラシは定期的に取りはずして点検してください。
- カーボンブラシが限界摩耗線まで摩耗したら新品と取り替えてください。このとき、カーボンブラシがブラシホルダ内で前後にスムーズに動くか確認してください。



カーボンブラシの交換

- ドライバでブラシホルダキャップを取りはずしてください。
- 中から摩耗したカーボンブラシを取り出し、新品と取り替えて、ブラシホルダキャップを組み付けてください。
- カーボンブラシは2個で1組になっております。取り替えるときは、必ず両側とも同時に行ってください。このとき、カーボンブラシがブラシホルダ内で前後にスムーズに動くか確認してください。



注

- **新品と交換する際は、必ず当社指定のカーボンブラシをご使用ください。指定以外のカーボンブラシを使用しますとブレーキがかからないことがあります。**

本機のお手入れ

- 乾いた布か石けん水を付けた布できれいに拭いてください。

注

- **ガソリン、ベンジン、シンナー、アルコールなどは変色、変形、ひび割れの原因となりますので使用しないでください。**

ご修理の際は

- 修理はご自分でなさらないで、必ずお買い上げの販売店または当社営業所にお申し付けください。

メモ

メモ

882527G0
NNP

株式会社マキタ
愛知県安城市住吉町 3-11-8 〒446-8502
TEL.0566-98-1711 （代表）